

第4回 ASEF のプログラムと講演内容について

2010年11月17日（水）及び18日（木）に京都（国立京都国際会館）において開催された第4回アジア造船技術フォーラム（ASEF）のプログラム及び講演内容は次のとおり。
なお、フォーラムのコーディネーターは（社）日本造船工業会 岩本 洋 氏が務めた。

◆ 11月17日（水）AMフォーラム第1日目

第4回 ASEF 開催にあたり、(財)日本船舶技術研究協会会長馬淵隆之氏及び(社)日本造船工業会常務理事桐明公男氏から歓迎の挨拶が述べられた後、国際船級協会連合(IACS)理事会議長兼(財)日本海事協会会長上田徳氏による講演が行われ、IACS の基本活動方針の紹介とともに、バランスのとれた海事分野の規則制定に関してアジアの造船技術者の集まりである ASEF の役割に期待している旨が述べられた。



船技協 馬淵会長



造工 桐明常務理事



(財)日本海事協会 上田会長

フォーラム議題1 船内騒音

1. Mandatory control of noise on board ships

講演者： Mr. O Kitamura (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd., Japan)
北村 欧氏 (三菱重工業(株))

2. China shipbuilding and new request of protection against noise on board ships

講演者： Mr. Sun Yudong (China Ship Scientific Research Center, China)

討議概要

欧州各国により提案されている、IMO 船内騒音コード（任意基準）の強化及び義務化の DE 小委員会における検討状況が紹介され、同提案における問題点の一つとして、船種、サイズに関係なく、一律に規制値を強化する点が挙げられた。討議の結果、船内騒音基準の見直しに関しては技術的検討が不可欠であるとの問題認識が共有された。



Mr. Sun Yudong
(China Ship Scientific Research Center, China)

フォーラム議題2 建造時の水密区画の試験

Testing of tanks and tight boundaries

講演者： Mr. O Kitamura (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd., Japan)
北村 欧氏 (三菱重工業(株))

討議概要

2009年1月1日に発効した改正 SOLAS 条約附属書 II-1 章の規定によれば、液体を積載することを目的としない区画であってもすべての水密隔壁構成構造に水張試験が要求され、配管、配線、塗装に悪影響を及ぼすなどの問題が生じている。船級協会は本件に関し現実的な対応を行ってきたが、これに対して欧州海上保安庁（EMSA）より条約遵守違反との指摘があった。この状況を解消するため、クック諸島とマーシャル諸島及び IACS が MSC86 において SOLAS 条約改正と新ガイドラインの提案を行い、数年内に DE 小委員会で議論されることになった。



三菱重工業(株) 北村氏

討議の結果、水密区画の試験に関する現状の問題認識が共有された。

フォーラム議題3 タンカーに関する環境 FSA

Environmental FSA for oil tanker

講演者： Mr. Yasuhira Yamada (National Maritime Research Institute, Japan)
山田 安平 氏 ((独)海上技術安全研究所)

討議概要

山田氏より、タンカーに関する環境 FSA では、北欧が主導し提案する、海洋環境保護にかかる規則策定時に、費用対効果を定量的に評価する判定基準として用いられる CATS (1トンの油流出を防ぐために投資すべきコスト) の過剰な設定がもたらす船体構造設計への影響の懸念が報告された。さらに、国際油濁補償基金 (IOPCF) の油流出データに基づいて導出した油流出量依存型 CATS が紹介され、問題認識が共有された。



(独)海上技術安全研究所 山田氏

◆ 11月17日(水) PM 小会議1 (Session 1)

小会議1のコーディネーターは、フォーラムのコーディネーターでもある(社)日本造船工業会 岩本洋氏が務めた。



小会議1の風景

小会議 1 議題 1 新造船用有害物質インベントリ (IHM) の標準化

1. IHM Preparation for new building ships

講演者： Mr. Muneharu Toyota (IHI Marine United Inc., Japan)

豊田 宗晴 氏 ((株)アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド)

2. The role of Hong Kong convention at ship recycling framework and the Japan's actions for implementation of the convention

講演者： Mr. Hirofumi Takano (Nippon Kaiji Kyokai (Class NK), Japan)

高野 裕文 氏 ((財)日本海事協会)

3. Inventory of hazardous materials for new ships

講演者： Ms. Guan Yinghua (Dalian Shipbuilding Industry Co. Limited, China)

討議概要

各国における IHM 作成の対処状況及び異なる解釈に伴い発生する問題点が紹介され、討議が行われた。また、(財)日本海事協会の IHM 作成ソフトウェア「PrimeShip-Inventory」のデモンストレーションが行われ、参加者の関心を得た。討議の結果、IHM 作成のための共通のマニュアル及び様式が必要であるとの認識が合意され、このためコレスポネンスグループ (CG) を設置し具体的な検討を行うこととなった。CG のコーディネーターは (社)日本造船工業会が務めることになった。



(株)アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド 豊田氏



(財)日本海事協会 高野氏



Ms. Guan Yinghua
(Dalian Shipbuilding Industry Co. Limited, China)

小会議 1 議題 2 バラストタンクの PSPC（保護塗装性能基準）

1. Useful and reliable Technology for PSPC – Automated soluble salt measurement and further challenges beyond

講演者： Mr. Hideo Obata (Namura Shipbuilding Co., Ltd., Japan)
小畑 英郎 氏 ((株)名村造船所)

2. Product tanker shipbuilding according to PSPC

講演者： Mrs. Luo Yun (Guangzhou Shipyard International Company Limited, China)

3. Uniform application of PSPC

講演者： Mr. Seo Sang Soo (Hyundai Heavy Ind. Co., Ltd. Korea)

討議概要

バラストタンクの PSPC に関し、表面処理時に行う塩分濃度計測の代替手法、PSPC のタンカーへの施工に伴うコストや工程増加の問題、現場の工作方法にかかる実務上の問題点、ISO における PSPC ガイドラインの策定状況について紹介され、討議が行われた。討議の結果、将来的に PSPC の不具合改正に向けて、解決策を策定することを目的に、Communication Group を設置し検討を行うことが合意された。



(株)名村造船所 小畑氏



Mrs. Luo Yun

(Guangzhou Shipyard International Company Limited, China)



Mr. Seo Sang Soo

(Hyundai Heavy Ind. Co., Ltd. Korea)

◆ 11月17日(水) PM 小会議2 (Session 2)

小会議2のコーディネーターは Mr. Jong Kap Lee (Korea Ocean Research & Development Institute)が務めた。



小会議2の写真

小会議2 議題1 GBS・設計の透明性と知的財産保護の両立

1. GBS-SCF (Ship construction file)

講演者： Mr. Y. Takaoka (Kawasaki Heavy Industries, Ltd, Japan)

孝岡 祐吉 氏 (川崎重工業(株))

2. Harmonized structural rules and ship construction files (SCF part)

講演者： Mr. Lu Sheng (Shanghai Merchant Ship Design & Research Institute, CSSC, China)

討議概要

日本、中国の講演者から、設計／建造の透明性と知的財産の保護の両立については、MSC87において、シップコンストラクションファイル(SCF)ガイドラインに関する日中韓欧米の造船工業会が主導した業界間共同提案が歓迎され、殆ど修正なく承認されたことが紹介されたこと、主要海運業界団体、IACS とともにトライパタイト東京2010の場において、業界詳細標準策定を目指し作業中であることが紹介された。



川崎重工業(株) 孝岡氏

討議の結果、これらの作業での問題点の認識と業界間での調整状況が認識された。

小会議 2 議題 2 GBS・調和共通構造規則 (HCSR)

1. Views on IACS harmonized CSR from the shipbuilding industry

講演者： Mr. Kohta Shibasaki (Universal Shipbuilding Corporation, Japan)
柴崎 公太 氏 (ユニバーサル造船(株))

2. Harmonized structural rules and ship construction files (HCSR part)

講演者： Mr. Lu Sheng (Shanghai Merchant Ship Design & Research Institute, CSSC, China)



Mr. Lu Sheng

(Shanghai Merchant Ship Design & Research Institute, CSSC, China)



ユニバーサル造船(株) 柴崎氏

討議概要

日本、中国の講演者から、GBS は 2010 年 5 月に IMO で採択されたこと、GBS に対応する調和共通構造規則 (HCSR) については、IACS が 2012 年初めを目処に第一次案を作成し、造船・海運業界に提示する予定であること、業界のフィードバックを織り込んだ改訂案を各船級協会が承認した後、2013 年中には IACS で採択、2013 年 12 月末までには IMO へ適合性審査を申請することになることが MSC87 で決定されたことが紹介された。討議の結果、HCSR が GBS の全ての機能要件をカバーする新分野の設計規則を包含することから、バルクキャリアーやタンカーの主な建造者であるアジア造船業界が共同して意見を発信することは、明らかに望ましいことであるため、IACS が提示する第一次案に対し、アジア造船業界の意見を反映させるよう協力して対応することの必要性が認識された。

◆ 11月18日（木） フォーラム 第2日目

フォーラム議題4 インド及びインドネシアのIMOへの対応

1. Indonesia's regulation in compliance with international regulations

STAR 50 : A Technical evolution process of handy size bulk carrier

講演者： DR. IR. Marx Jefferson (PT. PAL, Indonesia)

討議概要

インドネシアにおいて建造されている最新のばら積み貨物船（STAR 50 シリーズ）の紹介及び同船のIMO 関係規則への対応状況について紹介された。



DR. IR. Marx Jefferson (PT. PAL, Indonesia)

フォーラム議題5 小会議1及び2の報告

1. Report of Session 1

講演者： Mr. Dave Iwamoto ((社)日本造船工業会 岩本 洋 氏)

2. Report of Session 2

講演者： Mr. Jong Kap Lee (Korea Ocean Research & Development Institute)

討議概要

岩本氏は、小会議1の討議結果について紹介を行い、シップリサイクルに関しては、インベントリ作成のため共通のマニュアル及び様式の必要性が合意され、コレスポンデンスグループ（CG）を設置し具体的な検討を行うこととなったこと、バラスタンクのPSPCに関しては、PSPCの不具合改正に向けて、解決策を策定することを目的に、Communication Group を設置し検討を行うことが合意されたことを報告した。

Jong Kap Lee氏は、小会議2の討議結果について紹介を行い、GBS・設計の透明性と知的財産保護の両立に関しては業界間調整が行われていることを認識し、GBS・調和共通構造規則（HCSR）に関しては、IACSが提示する第一次案に対して、アジア造船業が協力して具体的に検討を行う必要性も認識されたことを報告した。



Mr. Jong Kap Lee
(Korea Ocean Research & Development Institute)

フォーラム議題 6 IMO NGO ステータス取得に向けた取り組み

1. Act 1; Introduction to NGO

講演者： Mr. O Kitamura (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd., Japan)
北村 欧 氏 (三菱重工業(株))

2. Act 2; Introduction to NGO

講演者： Mr. Nobuyuki Tanaka (Japan Ship Technology Research Association, Japan)
田中 信行 氏 ((財)日本船舶技術研究協会)

討議概要

NGO ステータスに関しては、その特権及び義務、並びに、造船を代表する CESA 等の NGO について紹介がなされた。さらに、次回フォーラムまでの間、日中韓及び関心を有する ASEF メンバー国は NGO ステータス取得に関して、WG/CG を設置し検討することとなったことが紹介された。



船技協 田中グループ長

フォーラム議題 7 結論及びフォローアップアクション

コーディネーター： 岩本 洋 氏 ((社)日本造船工業会)



韓国より、次回（第 5 回）ASEF を主催する意思が示され、次回 ASEF 会合は 2011 年に韓国で行うことが決定された。

Mr. Sa-Joon Kang

The Korea Shipbuilders' Association (KOSHIPA)

岩本氏より今回のフォーラムについて次のとおり総括された。

このフォーラムを通じて、アジアの造船業に影響を及ぼす様々な問題点について認識を共有することができた。そして、問題解決のための WG/CG を設置するなど、具体的に検討する新たな枠組みを作ることができた。

この結果、フォーラムの目的達成に向け、大きな前進をした。これからは、年 1 回のフォーラムに加え、WG/CG と併せ、ASEF の活動が益々活発になることが期待される。



造工 岩本氏

最後に、(財)日本船舶技術研究協会理事長 津田尚輝氏から、今回のフォーラム開催では、その活動をより積極的にするための改革を行い、従来のフォーラム方式による開催のほかに、個別テーマについて、その分野の専門家による協議形式の小会議を設け、議論を深めて頂いた結果、NGO 及びシップリサイクルに関する WG/CG が設置され、PSPC に関する Communication Group が設置されたことに伴い、審議が加速的に進み、ASEF の目的が早期に達成されることを期待すること、そして、(社)日本造船工業会及び(財)日本船舶技術研究協会はこれからも積極的に ASEF の目的の達成に向け活動していくことが表明されると共に、共催者である韓国造船工業会及び中国船舶工業行業協会、並びに、出席者の皆様、ASEF 活動を支援していただいている日本財団に対し、心より感謝する旨の閉会挨拶が述べられた。



船技協 津田理事長

◆ その他

第4回 ASEF 第1日目の夜に、日本主催の歓迎夕食会が盛大に催され、席上、(社)日本造船工業会会長 元山 登雄が歓迎の挨拶を行った。



造工 元山会長

以上